

## 【はじめに】

クエスタコンはオーストラリア最大のインタラクティブな科学センターです。クエスタコンは、科学展示、サイエンスショーと専用の劇場（Japan Theatre）、巡回型展示（巡回展とサイエンスサーカス）、オンラインコンテンツを通して、科学技術を普及させ、未来を形作る上での科学技術の役割についての認識を高め、オーストラリア全体の科学リテラシーを向上させる、という点で全国的なリーダー的存在です。

クエスタコンのビジョンは、科学・技術・イノベーションとの関わりを通じて、全てのオーストラリア国民にとってよりよい未来を実現することです。私たちは、首都を中心にオーストラリア各地で行われる刺激的な学習体験を通して、人々を熱狂させ、モチベーションを上げることが目標としています。

## 【基本的な質問】

### Q1. 設立年/博物館の簡単な歴史

- ・ 1977 年
  - オーストラリア国立大学のプロジェクトとして創設。
  - エインズリー公立高校内で開館、スタッフはボランティアのみ
- ・ 1982 年
  - 1988 年建国 200 周年記念事業として、国立科学センター設立が提案される
- ・ 1988 年
  - 11 月 23 日に、日豪協同プロジェクトとして現在の Parks の建物オープン
  - 日本政府・経団連から一千万オーストラリアドルの出資を受ける
  - 開館前の 7 月には、当時の竹下登首相が訪問
- ・ 1998 年
  - 設立 10 周年を記念して竹下登氏訪問
- ・ 設立以来、日本国内に拠点を置く様々な組織・行政との協力関係を有する。

### Q2. 展示・保管の延床面積（各）

3 つの建物を有している。

- ・ The National Science Centre（Parks という地域に立地）
  - 所謂「科学センター」を担う建物。一般来館者向けの展示物のあるギャラリースペース、予約制プログラムなどを実施する部屋、サイエンスショーを実施する劇場、スタジオ、職員の執務室、ボランティアスタッフなどの待機室がある。

資料 1. 事前に確認したクエスタコンの基本情報（日本語訳）

- ・ The Ian Potter Foundation Technology Learning Centre (Deakin という地域に立地)
  - 学校団体などの予約制ワークショップ (Maker Space workshop) などを実施する作業場、展示物の一部を製作する工房、職員執務室を有する建物。かつての造幣局の建物を改築している。
- ・ Fyshwick 倉庫 (Fyshwick という地域に立地)

Q3. コレクション・展示会の概要

- ・ 展示室 1
  - 企画展用の展示室。3/12 より、「Australia in Space」という、宇宙開発にかかる技術、地球や軌道上、更により遠い領域での活動などについての企画展開始。
- ・ 展示室 2 Fundamental
  - 名前の通り、「fundamental (基礎的な)」科学について、体験型の展示を含む手法で体験することが出来る展示室
- ・ 展示室 3 Awesome Earth
  - 地震体験展示や雷発生器などの大型展示物の他、地球惑星科学に関連する展示物が多い展示室
- ・ 展示室 4 Q Lab
  - 科学コミュニケーターによる実験実演を行う実験カウンターの他、来館者が観察・仮説・実験のステップを踏んで自身で科学的な営みを体験することも出来る展示室
- ・ 展示室 5 The Shed
  - 袖をまくって、手を動かして遊ぶ展示が多いエリア
  - 展示室の 1/3~1/2 程度のエリア内では、準備された道具（基本的に日常生活の中で手にできる物が多い）を使って自由に工作をすることが出来る。（親子連れの場合、お父さんが本気になって超大作を作っている光景が時々見られる）。テーマは定期的に変更される（木の棒とゴムバンドで立体構造を作るもの、雨樋やお玉等を使ってボールの通るコースを作るもの、紙コップや紐やビニールなどを使って上昇気流に乗せてよく飛ぶおもちゃを作るもの、等）。
  - 展示室の奥には「Blue Door Room」と呼ばれるアクティビティルームがあり、一部の幼児教育プログラムなどを実施している
- ・ 展示室 6 Mini Q
  - 0-6 歳向けのプレイグラウンド要素のあるエリア
  - 現在閉鎖中だが、ツアー中にご紹介頂ける予定
- ・ 展示室 7 Excite Q
  - 体を動かして遊ぶ展示が多い展示室。常に賑やか。
  - 手で触ったり動かしたりする展示が多いため、現在閉鎖中

資料 1. 事前に確認したクエスタコンの基本情報（日本語訳）

- ・ 展示室 8 Mars
  - 直径 7 m の火星バルーンが天井からつり下げられた展示室
  - 何故火星は、他の惑星よりも我々の想像力・興味を引きつけるのか？というテーマで、火星探査機の撮影した火星の風景が壁面に掲示されている様子

**Q4. 年間総訪問数**

新型コロナウイルス流行以前は、年間 52 万人を受け入れていた。

**Q5. 運営組織**

クエスタコンの諮問会議は、オーストラリア産業・科学・技術大臣が指名したメンバーによって構成され、議長はオーストラリア首相が任命する。

**Q6. 年度予算**

二千五百万オーストラリアドル

（大まかな内訳：50%政府からの資金、残り 50%は来館者収入、協力・協賛金）

**Q7. 就業者数**

合計 260 人（フルタイム勤務者 162 人を含む）

**【博物館コンテンツについて】**

\*ツアー中に紹介されるそうです。先方にお渡しした質問は以下。

Q1. 新しい展示室や企画展を作る際のフロー

Q2. 新しい企画を作る際に重要視していること（特にコンセプト）

Q3. 新しい幼児教育プログラムの作成手法

Q4. 幼児教育プログラムの作成において重要視していること

Q5. サイエンスショーの企画や実施体制、評価方法

Q6. 展示の評価・検証・更新（あるいは改良）のフロー

## 【社会課題への取り組み】

### Q1. SDGs の取り組み

オーストラリアの科学・文化を牽引する立場として、SDGs への意識醸成に貢献するべく以下の 4 つの目標を設定している。

1. 将来のスキルへの道筋と、コミュニティ内でのつながりの構築
2. SDGs の重要性への意識醸成
3. クエスタコンのプログラム・展示・ビジネスと SDGs を整合させる
4. 若者に対して、意識を行動に移す力を与え、将来大人として継承するであろう課題に取り組む為のリーダーシップを発揮できるようにする。
- 5.

◇クエスタコンでの取り組み一例

1. 館内通路の壁に地元アーティスト (Ian Dudley and Anna Trundle) による SDGs 啓発の為のペイントを作成
2. 毎年 11/10 「国際科学館の日」と 10/24 「国連の日」にイベントを開催
3. 国際石油開発帝石と 4 年間のパートナーシップ協定を締結、日豪の若者・教員向けに、エネルギーリテラシーの向上 (SDGs7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに) に焦点を当てた企画を計画している。関連して、2022-2023 年にかけて、日本国内でのサイエンスサーカスツアーを実施する予定。

### Q2. 災害や防災問題への取り組み

- ・ オーストラリア国内では山火事被害地への支援を実施。
- ・ 2014 年 4 月-5 月には東日本大震災津波被災地を中心としたサイエンスサーカスツアーを日本にて実施。豪日交流基金を通じて外務省の支援を受けた。オーストラリア・パースの Scitech Discovery Centre のサポートと、未来館との連携の中で実施。14,700 名の児童生徒・家族にサイエンスショーなどを届けると同時に、ツアー終了後は 30 程度の移動式展示物を寄贈。

### Q3. コロナ対策への取り組み

【その他】の章で紹介する事業戦略を参照して下さい。

## 【その他】

Q1. 活動指針(ビジョン)作成の流れと、その活用について。(例として、未来館は 10

年ごとにビジョンを作成し、そのビジョンに沿って活動をしています。)

- ・ クエスタコンの事業戦略では、2020 年-2021 年、そしてその先において、どのようにクエスタコンを発展させていくのかを記している。
- ・ ポストコロナにおける主要戦略は以下の 12 項目。
  1. 来館者を再び安全に迎えること、そして来館者数を徐々に回復させること
  2. 新型コロナウイルス感染症による状況下での、制約のある運用に適した展示の再考
  3. 学校団体の見学受け入れの再開
  4. クエスタコンのプレゼンスを再度確立する
  5. クエスタコンのデジタル戦略の再考
  6. クエスタコンの入館料収入、スポンサーシップ、慈善団体などによる支援の再構築
  7. 財務・物件レビューに基づくクエスタコンの運用モデルの再策定
  8. 国内観光主導での、キャンベラ（首都）景気回復への対応
  9. クエスタコンの、オーストラリア国立科学技術センターとしての役割の再確認
  10. NPP の責任を果たすことに注力する
  11. レジリエンス（回復力・弾性）の反映
  12. 2021 年-2022 年での強い立ち直り

クエスタコンは、感染リスク下における新しい運用モデルを構築する必要がある。

今後、クエスタコンは、国内の科学コミュニケーション専門知識と、各セクターとのパートナーシップを活用し、政府の優先課題(STEM 教育、STEM 領域でのキャリア形成、STEM 領域の教員への授業支援、ジェンダー、人工知能、サイバーセキュリティー、エネルギー、オーストラリアの宇宙産業の発展、地域社会への支援)に取り組んでいきます。